

エンパワーメントによるツーリズム協働事業定着に向けての グループワークに関する研究

見 田 賢 一 (新潟医療福祉大学大学院)

1. 目的

見田(2008)^{*1}は、自治体にて取り組むスポーツ・ツーリズム事業（以下、ツーリズム事業）の定着は、グループワークを通じコミュニケーションを図り、段階的に地域学習及び事業実施に向けた学習を行うことが望ましいとしている。本研究は、行政と地域住民が協働で実施するツーリズム事業の定着に有効なグループワークの方法は何かを、推進委員個々の能力（以下エンパワーメント）の視点から検討する。具体的にはA自治体で取り組むツーリズム事業「温泉を活用した健康づくり事業」に携わった推進委員（地域住民）のエンパワーメントからグループワークの一方策を探る。

2. 仮説

「市民と行政の協働」によるツーリズム事業の定着には、地域住民間及び地域住民と行政のコミュニケーションの成立が必要である。このため、個々のコミュニケーション能力を育むために①レクリエーションを中心としたコミュニケーション向上、②地域特性を再発見するためのグループワーク、を通じて相互のコミュニケーションを図ることがツーリズム事業の定着に必要であると仮説した。

3. 対象

対象は、A自治体で取り組むツーリズム事業の開催に対して自治体が委嘱した、推進委員から無作為に抽出した6名である。内訳は表1の通りであった。

表：1 聞き取り調査実施者の内訳

個人	性別	年齢	所属他
A	男	60代後半	温泉活用施設支配人
B	女	40代前半	市社会教育委員
C	女	60代前半	食生活改善推進委員
D	男	20代後半	温泉活用施設職員
E	女	50代前半	旧自治体臨時雇用員
F	男	30代前半	民間企業企画営業所属

年齢及び所属は、調査当時のものとする。

4. 条件

(1) 調査方法

対象者個々に対して、半構造化インタビューを実施した。インタビュアーは、対象者がツーリズム事業の開催や運営参画に積極的な気持ちを持つと仮定してインタビューに臨んだ。

(2) 調査期間

2008年8月18日(木)から8月20日(土)の3日間

(3) 分析方法

半構造化インタビューにより得た言葉を、カード構造化法により分類し、課題を整理することで、ツーリズム事業の定着に必要なグループワークの方策を検討した。

5. 結果

犬飼(2003)*²は、グループワークトレーニングは対象者双方の日常的コミュニケーションに変容をもたらすことが出来たとしている。本研究でも、①グループワークにより、個々のコミュニケーションスキルが高まる②グループワークによる地域再発見作業が可能であると捉えていた。インタビューから得た言葉からは、「ただ仲良くなるのではなく、他者の考え方を理解したうえで、他人を認めることが必要である」「段階的なグループワークカリキュラムが必要」「欠席者のためのフォローアップシステムがあれば良い」「グループワークの進行役が必要」とあった。また地域再発見作業としては、「机上の作業だけでなく、実際に見て触れる必要がある」とあった。この聞き取り調査から得た方策として、①楽しいだけではない他己理解レクリエーションによる心の交流。②体験型グループワークとフォローアップのカリキュラム化。③グループワーク進行役の養成。これらが、協働によるツーリズム事業定着に向けてのグループワークに必要なことが明らかになった。

6. 考察

本研究では、ツーリズム事業の定着に必要な関係者間のコミュニケーションを高める方策としてグループワークが有効であると仮説をした。エンパワーメントから得た協働によるツーリズム事業定着に必要なグループワークとして以下の3点を得た。

①他己理解グループワーク

楽しさだけが一人歩きするのではない、他者を理解するための作業としてレクリエーション(アイスブレイキング)を含むエンカウンターの実施。

②地域発見グループワーク

机上で考えるだけでは、限られた資源しか検討できないので、あらかじめ地域発見課題を提供し、かつ体感し地域の良さを知る「体験型グループワーク」の実施。

③グループワーク進行役の養成

当初は行政がその役割を担うことが想定されるが、行政の考え方を押し付けず、常に平等な立場でグループワークを進行できる人材の養成が必要である。また段階的に同作業を行える地域住民の養成も必要である。

以上のグループワークの方策により、定着を目的とする協働によるツーリズム事業の計画が可能になると予想される。

今後の課題として、進行役(ファシリテーター)養成方法と、より具体的なグループワークの手法を検討し、実際に開催されるツーリズム事業にて実践し、その有効な手段を明らかにしたい。

<参考文献>

※1 見田賢一「エンパワーメントによるスポーツ・ツーリズムの定着に関する研究」2008 第8回新潟医療福祉学会

※2 犬飼己紀子「コミュニケーションのスキルアップをねらったグループワーク・トレーニングの実践」2003 上田女子短期大学紀要第26号